



# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

vol. 6  
2011年12月号



こころの中を見つめよう  
博愛を広げるために

こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

月信に掲載しなかった補足情報をホームページに掲載しております。<http://ri2710.com/> をご覧下さい。

## ガバナーメッセージ GOVERNOR'S MESSAGE

### CLPを考える



国際ロータリー第2710地区  
2011～2012年度ガバナー

田村 泰三

CLPが進められて5年くらいになります。しかし「CLPを採用したけれど少しもクラブが良くなつたとは思われない」という発言も少なくありません。CLPとはいつたい何なのでしょうか。手続き要覧にもCLPの説明があります。これを読んでも具体的な対応手段に結びつけることは困難です。長期計画をクラブで進めるために、長期計画委員会を立ち上げられたクラブもあります。

CLPはクラブを良くしようとする計画であり、その計画を立てるための作戦が長期計画であると言えます。国際ロータリーは「長期計画策定の手引き」というパンフレットを作成し、ホームページにも提示しています。

クラブの職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の委員会を「奉仕プロジェクト委員会」という大きな枠に組み替えることは、その手段の一つのモデルではあっても、総てのクラブに適合するものではありません。会員数の少ないクラブには有効でも、多いクラブでは組織が複雑になつたり、奉仕活動に参加する機会が少なくなる会員がでることになるでしょう。

CLPは一度行えばすむということではなく、繰り返し見直しが行われることが必要です。その前にDLPが導入、施行されました。DLPは“地区を良くする計画”ですから、これも常に見直されることが必要です。ガバナー補佐制度を導入するだけではないはずです。

では、なぜこの様な制度の変化を国際ロータリーは私たちに求めてきたのでしょうか。残念ながら、その説明を聞いた覚えはありません。私自身の想像で補って考えてみたいと思います。国際ロータリーは組織です。多くの人々やクラブで構成される組織であり、組織の基盤は国際ロータリーが認証したクラブです。組織の経営者は組織が衰退したり消滅しないように守る必要があります。会社や組織の最高経営責任者と同じです。会社はいくら今経営がうまくいっていても、いつまでも同じことを繰り返して、時代の変化、環境の変化に応じた改革を怠っていては存続できなくなります。そのような実例はどのように大きな会社や組織にも例外でないことはよく知られています。国際ロータリーの会員が減少傾向を示したことは大きなショックであったと思われます。

経営の改善には“マネジメント”的考え方と手法が基本です。そのマネジメントの手法の一つがCLPで、国際ロータリーは構成基盤であるロータリー・クラブの強化以外には組織を維持継続することはできません。

一方、私たちロータリアンにとってロータリー活動や組織に対する改革などは面倒なことであり、このようなことがあまりないことを望みます。会社でも変化を求める上司や経営者は疎まれます。しかし、マネジメントからすれば、この様な経営者でなければ組織は守れません。

CLPやDLPは国際ロータリーという組織を守るために編み出された改革の手法であり、これによってロータリー・クラブを強化しようとするものと考えたいと思います。

長期計画の策定について言えば、“長期”という言葉が1年ごとに会長幹事が交代するロータリーの方式になじまないと考える人もいます。この“長期計画”は“strategic plan”を日本語に訳したもので、直訳すれば“戦略計画”であることを知りました。この言葉に置き換えて理解する必要があります。

CLPと長期計画の本来の意味を上記の様に理解したいと思っています。



# 「家族月間に寄せて」

パストガバナー 謙 訪 昭 登



今月はロータリーの特別月間としての「家族月間」です。本年度カルヤン・バネルジーRI会長は3つの強調事項の第1に「家族」を挙げ、ロータリーの目指すすべてのことの出発点が

家族にあることを強調しています。ロータリーは荒廃した社会の中で、互いに胸襟を開いて語り合える友情を求めて出発して、直後には親睦と奉仕を不可欠な両輪として様々な試行錯誤を続けて100年余の輝かしい歴史を築いております。最も重要な綱領の主文に、「有益なる事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し育成し…」とあるように、職業奉仕をロータリーの目的としています。特に第3項において、「ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること」とありますが、個人生活は家庭生活とみなせるので、まさに家族こそが奉仕の最初の出発点たることが明確に示されています。ロータリーの家族とは個人的家族のみならず、ロータリーに関連するあらゆるグループ、個人などを含めて、共に奉仕を考え、そして実践しようとする大きな絆のことです。さらにその意味合いのご理解と実践の推進をお願いするために、その概念の沿革をご紹介します。

・1995～96年度ハーバート・ブラウン会長

11月RI理事会で2月第3週(のちに第2週)を家族と地域社会週間(のちに家族週間)と指定。「家族の平和が地域の平和に、それが国家の平和につながるから、健全な家庭を再認識して下さい。」

・1997～98年度グレン・キンロス会長

「私たちは世界理解と平和を究極の目的として、その進むべき未来と運命の道筋を描いて来ました。これこそ全世界のロータリアンをロータリー家族としてつなぐ唯一の理念です。」

・2002～03年度ビチャイ・ラタクル会長

「家族は地域社会を築く一つの積み木である。家族の絆を強化するためにはロータリアンが尽力すべし。家族の絆が強まれば地域社会も強化される。」

・2003～04年度ジョナサン・マジャベ会長

ロータリー家族をRI会長強調事項に挙げ、12月を「家族月間」と指定。(この時点では2月の家族週間は廃止。)ロータリアン家族、すなわち配偶者、お子様、お孫さん、物故会員の配偶者の方々を主対象しながら、ロータリーにかかるすべての人々を対象とした。

・2004～05年度グレン・エステス会長

前年度RI会長強調事項を引き継ぎ、財団学友、GSE、IAC、RAC、青少年交換、RYLA、RCCなどを含む具体的対象を示した。「ロータリー家族への心遣いの奨励」を強調。

・以後2007～08年度ウィルフレッド・ウィルキンソン会長まで、「ロータリー家族」は会長強調事項の1つとして継続。

このような経過で本年は「家族」が強調事項の中に再登場したのであります。120万人を超えるロータリアンと関連する人たちとの絆を強化することで、ロータリーの理念と目標の推進が大きく促進されるというものが「ロータリー家族」の主旨と言えるでしょう。

かつて1982～83年度日本人2人目の向笠広次RI会長は、RIテーマ「人類はひとつ 世界中に友情の橋をかけよう」と掲げました。そしてその補足として「人類はひとつの家族 - すべての人間、すべての国民を含むひとつの大きな家族です。全家族の平和と幸福がなければ、個人の平和と幸福はありません」と語りました。これこそ「ロータリー家族」の概念の起源であると考えて引用した次第です。

家族月間では「家族」について特に思いをめぐらせていただき、暖かい愛を育み、奉仕への情熱を高めて下さるようお願いします。



# 第2710地区におけるRLIの進展

RLI日本支部  
副委員長

川妻二郎



2008年導入以来、関係者のご努力もあってここまで進展してきましたが、何と云っても南園元委員長の開拓牽引力があってこそのことだと感銘を深くしています。有難うございました。これからもご指導をよろしくお願いいたします。

まずは何名くらいの卒業者がうまれたかですが、  
第1期 2009年2月、5月、7月

参加者77名 卒業者48名

第2期 2010年2月、6月、8月

参加者78名 卒業者56名

第3期 2011年4月、6月、9月

参加者83名 卒業者79名 計183名です。

これらのRLI研修が出来たのもDLや企画支援をいただいた方々のご努力のお蔭で地区としてのノウハウ集積が出来たわけですから、お名前を記録しておきたいと思いますし、地区やクラブでの今後の研鑽向上にご協力方お願い出されれば幸いです。

## RLIを理解し利用する為の3段階

### 第1段階

いきなり質問されて最初は違和感があったかも知れませんが、最近はみなさんがこの手法に大分慣れて来られたようですね。講演を聞くだけよりも対

話型の方が理解が進み、新しい発想に繋がると云う考え方の教育手法が多く開発されました。いずれも聞くだけよりも自分で考え発言する方が脳の働きが多いという原理に基づくのだそうです。正確に伝達をする場合は依然として資料説明、講演などの手法が必要ですが、参加し理解を深め新しい発想のもとに行動を起こしてもらう為には、対話型が優れていると思います。従って、RLIでは受講者と呼ばず、参加者とよんでいるのです。

### 第2段階

各科目の質問は入り口からゴールに向かって、登山の時の道標の如く作られているのでしょうか、質問する方もされる方も短い時間の中でこの仕組みを使いこなすのは簡単ではないですね。慣れてくると上手に誘導し、またされている様ですね。

### 第3段階

DLと参加者の鍛度が増してくると、DLが参加者それぞれにテーマを渡し、智慧を尽くして練り上げたものは、あたかも財団夢計画でクラブのメンバーが集まってプロジェクトを模索するときにそっくりのような気がします。夢計画の時には生の材料に向かって智慧を出すのですからRLI手法の鍛度もさらに上がるようになるでしょう。夢計画に取り組むまえにRLIを勉強しておいてよかったということになれば、夢計画とRLIの融合です。

## ■RLI-2710 アドバイザー・ディスカッション・リーダー

天野 肇 (福山)	中山 昭 (下関東)	木下 毅 (下関)	胡 博興 (下関西)
西村 栄時 (岩国西)	河上 熱 (萩)	兼広 三朗 (宇部西)	西村稀一郎 (小野田)
川妻 二郎 (広島南)	伊藤 信夫 (山口県央)	門田 晴善 (防府南)	貞國 翔 (山口)
諫訪 昭登 (広島西)	東 日出夫 (光)	小野 真嗣 (徳山セントラル)	土井 邦彦 (徳山東)
伊賀 訓之 (徳山東)	八百谷俊昭 (岩国西)	藤中 秀幸 (岩国中央)	伊藤 進吾 (岩国)
田原 榮一 (広島中央)	松尾 龍一 (広島安芸)	佐藤 恭子 (広島安佐)	斎藤 隆幸 (広島)
岩森 茂 (広島北)	佐々木 宏 (広島西南)	安部 憲明 (広島西)	久笠 信雄 (広島城南)
前田 茂 (三次)	奥先憲太郎 (呉南)	竹内 紀夫 (西条)	林 潤彦 (呉)
田村 泰三 (柳井)	本庄 純夫 (竹原)	村上 清司 (尾道)	上田 隆治 (三次)
錦織 亮雄 (広島東南)	坂本 祥郎 (福山丸之内)	豊田 國弘 (福山)	角 紘一 (府中)
	近本 肥子 (福山南)	杉原 康生 (福山赤坂)	佐藤 忠彦 (福山北)
	舛岡 哲 (東城)	村竹 升 (三次中央)	中川 筆之 (三次)



## ■ RLI-2710 卒業者（第1期～第3期）

下関中央	宇部東	光	柳井西	広島城南	吳	尾道	阿部	晋士
増谷 道康	外尾 雅男	河村 幸昌	田村 邦夫	沖本 範文	林 潤彦	岡野吉右衛門	梶原 正己	
三宅 浩史	コラド・ペーター	沖本 恒生	秋田 京子	中本 高明	明神 博	吉原 久司		福山西
矢田部 宏	河口 明美	周南西	西海 俊夫	中村 松継	三宅 清嗣	竹原	藤井 英勝	
下関東	徳丸 修	蔵清 正一	広島	広島南	藤井 清実	吉岡 一眞	北村富喜子	
弓崎 勝仁	宇部西	高橋 三晴	松田 弘	越智 基治	吳東	荒谷 隆文	平田 恭彬	
水野 直房	東 良輝	平村 紀夫	蔵田 修	花岡 宏	藤川 元久	福山	松永	
下関北	善甫 廣文	檜垣 康彦	田中 保昭	竹内 徳將	武安 紘二	門井 健	高橋 敏行	
西丸 博	網本 昭輝	徳山	広島安芸	井内 康輝	吳南	唐川 正明	土井 芳憲	
森脇 稔	有田 幸一	竹村 恭典	山下 恒男	中吉 雄二	久間 利彦	晝田 眞三	徳久 行夫	
下関西	防府	福谷 正道	小畠 進	広島東南	山本 清	福山東	竹腰 正司	
森 寛伸	松原 博幸	堀 信明	広島安佐	生谷 武寛	狩尾 元重	小西 直人	稻垣 城史	
油谷湾	防府北	徳山セントラル	松岡 興吉	神田 敏治	垣谷 広明	川崎 正皓	吉舎	
福田 美治	永田 信明	内富 敬厚	坪島 秀樹	神辺 真之	大内 基康	坂井 要	奥田 卓三	
萩	古松 孝蔵	長尾 一郎	広島東	温泉川梅代	西条	福山丸之内	後藤 信之	
横山 賢治	光浦慎太郎	徳山東	長浜 成弥	広島西南	小早川 清	堤 光仁	田原 和彦	
仲子 進	防府南	山本 政信	堤田 英治	杉川 聰	本田 逸男	片山 弘雄	三次	
光國 義仁	中村 元彦	狩野 洋一	広島北	青山 裕	菅生 一光	鞆の浦	佐藤 匠司	
高雄 一壽	小山 剛器	森田 福一	中尾 建三	曾里 裕	藤井 春男	宇田 宏之	藤谷 博義	
萩東	長沼 志磨子	岩国	高原 宏之	広島西	広島空港	原田 隆史	三次中央	
篠原 勝	山口	豊田 清人	水野 勝	井原 俊彦	小川 雅文	津田 悟	高橋 宏	
長岡 智里	河村 和夫	天羽 満則	広島陵北	川西 祐二	重森佳代子	福山赤坂	清水 保子	
美祢	波多野義憲	高田 洋美	小川 嘉彦	江田島	大下 知男	菅 雪雄	平田 博紀	
福田 邦義	山口中央	岩国中央	大竹	水口 太郎	因島	徳永 雅俊	庄原	
鹿嶋 辰夫	横田 晃一	中村 義行	畠中 透	東広島	藤原 繁広	福山北	滝川 聖治	
谷口 恭志	山口県央	宗近 敏之	西岡 志信	榎 賢志	兼田 敏郎	藤井 好夫	石原 肇	
小野田	藤田 育夫	岩国西	広島中央	早志 光由	三原	村上 学	東城	
嶋本達家	藤井清一郎	芦岡 謙一	吉澤 宰治	白島 洋司	大目木康行	山本 誠宏	平木 幸夫	
宇部	佐川 博	川畑 道子	藤村 欣吾	房原 正明	荻路 欣吾	福山南	林 嘉啓	
加藤 紘	山口南	正木 康史	河野 隆	田渕水作夫	出田 啓治	高橋 寛登		
田中 敏夫	秋本 幸夫	柳井	広島廿日市	東広島21		橋本 賢三		
金子 正己	有吉 博	有吉 裕治	森井 紀夫	山名 浩司		藤岡 一郎		
上村 卓司								

## ■ RLI-2710 タスクフォース

古澤 宰治（広島中央）	丸田 洋司（三次）	奥先憲太郎（吳南）
佐々木 宏（広島西南）	小田 聰之（三次）	山内 恭輔（広島南）
杉川 聰（広島西南）	児玉 敏宏（三次）	田村 邦夫（柳井西）
吉清 有三（広島中央）	藤谷 博義（三次）	宇野 明（柳井西）
	瀧岡 直隆（三次）	金井 哲明（柳井）

# Bali Taman RCを訪ねて

パストガバナー 筒井數三



Bali Taman RC(インドネシア・バリ島)が創立20周年を迎える招待を頂いたので、広島東RCをはじめ、広島・山口両県のロータリアン及び家族12名が奉祝の式典に出席した。

Bali Taman RCとの関係は今をさかのぼること17年前の1994～95年、私が地区ガバナーに就任した時に始まる。何かひとつ世界社会奉仕活動に取り組みたいと考え、小園PGに調査をお願いした。たまたまBali Taman RCがバリ島の婦人病対策を検討していたことがわかり、協議の結果、移動婦人検診車を寄贈することになったのである。2710地区とBali Taman RCで500万円、ロータリー財団にマッチング・グランドを申請し500万円の

資金を拠出して頂き、合計1000万円で検診車の製作に着手した。1997年完成し、9月2日贈呈式を行ない、バリ島の田舎を訪問しての検診活動がスタートした。

2000年には検診車の運営管理費が不足することが判明した。このため、2710地区から1000万円を拠出して「スハティ財団」を設立し、その基金利息でまかなうこととした。2005年になると、現地の金利が以前の15%から5%位にまで下落し、再び運営資金が不足するに至った。そこで、2710地区からさらに500万円を拠出して現在に至っている。

婦人移動検診車が活動している田舎へ同行し、評判を調査してみると大変好評。検診車の活動が長く有意義に続くようにと、本プロジェクト開始以来12回もバリ島を訪ね、Bali Taman RCや関係者の皆様に感謝の辞を述べ、激励してきました。



検診車の前で訪問団一同、  
Bali Taman RCの皆さんとの記念写真



環境保護の一環としてマンゴローブの  
植樹事業にも参加

## 地区ホームページ12月度更新、掲載予定記事

- GSE 派遣報告書 財団委員会
- GSE 訪問報告書 各グループ
- RA海外研修IN香港 RA海外研修実行委員長
- 第2回地区諮問委員会報告 代表幹事
- 地区大会写真集
- 認知症サポーター養成講座 下関北RC(クラブだより)
- バリ島合同水PJ事業について 福山東RC(クラブだより)
- ガバナーメッセージ ビデオ版vol6
- 米山ハイライト(PDF)
- 74クラブ会員増減表(PDF)
- 2012年5月 国際ロータリ一年次大会(バンコク) ご案内 PDF



# GSE受入を終えて

柳井RC GSE担当 河村敬一郎



10月2日に広島空港にGSEメンバーを夕方18時過ぎにWelcome GSEmemberの横断幕と共に迎え入れて、まずは三次・庄原地区のホームステイから始まった。企業訪問は、ミヨシ電子(株)から始まり、全工程で80ヶ所以上の企業や文化施設等を訪問し、なかには体験学習等も盛込んで10月31日に広島空港より帰国された。

今回のGSEメンバーの希望に基づき、多くの企業を訪問していただいたり、メンバーの中にレストランの支配人までいた関係上、日本の食文化に対しての会話も多く経験したと考えられる。到着早々からお好み焼きを体験したり、健康食の代表と考えられる刺身や回転寿司、三次ワイナリーでのウェルカムパーティーでバーベキュー等、本場讃岐での手打ちうどんに至るまで食文化体験は多岐に渡ったものと考えられる。

GSEメンバーの職業や興味のある事が、漁業関係やプラスチックの射出成形という特殊なものもあり、リヨービ(株)(釣り道具製造)をはじめとして、サンライン(株)(釣糸を製造)等も見学していただき、実際に日本の基本的な針と糸と重りのみで釣る流し漁法も体験してもらう事ができ、大変満足をしておられた。

日本の文化面に於いては、三次太鼓やドンチャンに迎えられ、三次市長・三原市長・山陽小野田市長の表敬訪問・藤原農園・歴史博物館・美術館・日本履物博物館・福山大学の学生と交流・倉敷美観地区・

栗林公園・源平の古戦場である屋島・福山城・しまなみ街道をツーリング・浴衣の着付・巫女の服装・筆の里工房・刀剣・大和ミュージアム・賀茂鶴酒造・茶の湯体験・広島平和記念公園・原爆資料館・厳島神社・やまぐちフラワーランド・柳井白壁の町・KRY山口放送・日立製作所笠戸工場・レストランシーホース夜景クルーズ・防府天満宮・毛利邸・阿弥陀寺・協和発酵・日本果実工業・KDDI山口衛星通信センター・瑠璃光寺・雪舟庭での座禅体験・常盤公園ヴィエンナーレ展・赤間硯・秋吉台・松陰神社・萩焼窯元・おのだサンパーク・林兼産業・海響館・亀山八幡宮内剣道場・大寧寺・五橋酒蔵・香道・錦川屋形船・吉川窯にて作陶体験等多くの文化に触れていただけたと考えられる。

職業・食・文化・体験等ありとあらゆる日本の文化に触れる一ヶ月間であったとリーダーのロイ・ヴァリチャカさんが言っておられた。エルドンさんは余りにも多くの日本の文化に触れた為、帰国後ゆっくり思い出すと言っておられた。また、エレンさんとノエルさんは特に日本の考え方の一つである「もったいない」という意味が少し分かったと言っておられた。最後に10月30日グランヴィアにてフェアウェルパーティーが開催され、川妻パストガバナーをはじめとする、今回のGSEプログラムに關係したメンバーやホストファミリーが一同に介して別れを惜しんでいた。翌31日午前7時55分に広島空港にて無事にお見送りができた。



歓迎会(三次ワイナリーにて)



送別会(ホテルグランヴィア広島にて)



「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万3千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、

### ガバナーマンスリーから

「RIテーマの解釈」	田村泰三	2011 1p (D.2710月信)
「東西ロータリーの温度差」	久野 薫	2011 5p (D.2680月信)
「あなたの背中で会員増強を」	久野 薫	2011 4p (D.2680月信)
「会員増強について-急がば回れ」	上野 操	2011 1p (D.2580月信)

### ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階  
TEL(03)3433-6456・FAX(03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>  
開館=午前10時～午後5時 休館=土・日・祝祭日

文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFをご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。

以下資料のご紹介を致します。

### 下記申込先:ロータリー文庫

「会員増強および拡大月間にちなんで」	模 泰吉	2011 1p (D.2680月信)
「次の時代を担う若手会員の増強とベテラン会員に敬意を」	松田健一	2011 1p (D.2600月信)
「クラブ・リーダーシップ・プラン(CLIP)について」	小林完治	2011 1p (D.2690月信)
「規定審議会(CL)について」	服部芳樹	2010 3p (D.2630月信)

## 新会員紹介

(順不同)

	小柳信洋 下関東RC 2011年10月6日 総合病院		池谷壮史 下関西RC 2011年10月5日 証券業		沖潮宗男 下関西RC 2011年10月5日 土地家屋調査士		宮本俊亮 防府南RC 2011年10月6日 建築材料販売		青村修次 長門RC 2011年7月5日 水産物製造販売		渡辺幹文 長門RC 2011年8月23日 地方銀行		河口勝正 長門RC 2011年7月5日 不動産業		村田勇吉 長門RC 2011年7月5日 学校法人		櫛田宏治 下関RC 2011年10月24日 大学
	渡部哲生 広島北RC 2011年10月6日 自動車関連貿易業		二井本浩司 広島北RC 2011年11月10日 給食受託業		神藤潔 大竹RC 2011年10月4日 ボリエチレン製造		笠井裕子 広島中央RC 2011年10月17日 生命保険		川口哲司 広島廿日市RC 2011年10月31日 金型設計製作		越智基浩 広島南RC 2011年8月26日 電気・機械器具製造		鈴木浩司 広島南RC 2011年9月2日 ホテル		平田隆司 広島東南RC 2011年10月31日 シティホテル経営		
	橋本幸範 広島西南RC 2011年10月11日 商事弁護士		尾馬久子 広島西南RC 2011年10月11日 行政書士		斎田博正 広島西南RC 2011年10月11日 民事弁護士		井上宏春 江田島RC 2011年10月13日 スーパースター		神田朗 呉RC 2011年10月6日 造船業		橋濱智美 広島空港RC 2011年10月5日 整体		岩瀧尚史 尾道RC 2011年9月9日 外国為替銀行		安原稔 尾道RC 2011年10月28日 信用金庫		

謹んで哀悼の意を表します



広島RC 故大田哲哉 殿 2011年11月7日ご逝去 (享年70歳)

- 2000-01年度 クラブ奉仕部門理事・委員長
- 2007-08年度 クラブ副会長
- 理事、委員長歴任、ベネファクター
- マルチプル・ポール・ハリス・フェロー、米山功労者マルチプル
- 職業分類／市街郊外電車